



令和 8 年 8 月 5 日

奈良県内経済情勢報告

(令和 8 年 7 月判断)

1. 総論

【総括判断】

「県内経済は、持ち直している」

項 目	前回 (8 年 4 月判断)	今回 (8 年 7 月判断)	前回 比較
総括判断	持ち直している	持ち直している	→

(注) 令和 8 年 7 月判断は、前回 8 年 4 月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

(判断の要点)

個人消費は、緩やかに回復しつつある。生産活動は、横ばいの状況にある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

【各項目の判断】

項 目	前回 (8 年 4 月判断)	今回 (8 年 7 月判断)	前回 比較
個人消費	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	→
生産活動	横ばいの状況にある	横ばいの状況にある	→
雇用情勢	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→
設備投資	7 年度は前年度を下回る見込み	8 年度は前年度を上回る見込み	↗
企業収益	7 年度は増益見込み	8 年度は増益見込み	→

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、持ち直していくことが期待されるものの、中東情勢や金融資本市場の変動等の影響を注視する必要がある。

2. 各論

【主な項目】

■ 個人消費 「緩やかに回復しつつある」

- ・百貨店・スーパー販売は、一部に節約志向がみられ、低調に推移している。
- ・コンビニエンスストア販売は、高価格帯の付加価値商品と PB 商品をはじめとする低価格帯商品を中心に、堅調に推移している。
- ・ドラッグストア販売は、インバウンドによる菓子類や季節商品のまとめ買い需要などを背景に、堅調に推移している。
- ・ホームセンター販売は、天候不順による売上不振の月があったものの、園芸関連商品などが好調であったため、堅調に推移している。
- ・家電大型専門店販売は、耐久消費財の売上げが増加していることから、好調に推移している。
- ・乗用車新車登録届出台数は、普通車・小型車・軽自動車すべてにおいて前年を上回っていることから、全体で前年を上回っている。
- ・観光動向は、国内観光客の増加により、回復している。

(主なヒアリング結果)

- 物価高と、一部中東情勢の影響による原材料価格の高騰が要因で、多くの品目において販売価格を引き上げているが、それでも客単価が減少していることを踏まえると、消費者はより安価な商品を厳選して購入していると思われる。
(百貨店・スーパー)
- 客数・売上数量が4月以降回復傾向にあり、節約志向は一段落している印象を受ける。特に安価で質もいい PB 商品は好評で、売れ筋傾向にある。
(百貨店・スーパー)
- 商品の売れ行きは、高価格帯商品と、PB 商品をはじめとする低価格帯商品に二極化している。相次ぐ値上げの影響で、一部に節約志向もみられるが、当期に実施した増量や値引きのキャンペーンは消費者の反響も大きく、売上げは堅調に推移している。
(コンビニエンスストア)
- 中国人観光客が前年比で減少しているが、アメリカやマレーシアからの観光客が増加していることを背景に、天候不順があった6月を除いて、売上げ・客数ともに前年を上回った。商品別では、菓子類に加え、日焼け止めやハンディファンなどの季節商品の売れ行きが好調。
(ドラッグストア)
- 気温上昇に伴い、殺虫剤や除草剤などの園芸関連商品が好調であった。一方で、6月は昨年よりも涼しかったことから夏向けのクール商品の売上げは不調となっている。
(ホームセンター)
- 当期は2027年からの省エネ基準強化を見据えた駆け込み需要によりエアコンの売上げが伸長したことに加え、冷蔵庫や洗濯機など、エアコン以外の耐久消費財の販売も連動して増加したことから、全体の売上げは前年を大きく上回った。
(家電量販店)
- 4月から環境性能割が廃止されたことにより、これまで買い控えていた消費者の購入が進み、当期の売上台数・売上高ともに前年を上回っている。
(自動車販売店)
- 4月は桜のシーズン、5月はゴールデンウィーク期間が好調であったことから、売上高は前年を上回った。一方、中国人団体客の利用が大幅に減少したことにより、インバウンド比率はピーク時の半分程度まで低下している。
(宿泊)
- 奈良市中心部におけるインバウンドや日本人観光客による利用が堅調である。一方で、貸切バスを利用したパッケージツアーについては、京都の宿泊施設が予約で埋まっている影響から、奈良の観光を組み込んだツアーの催行が減少している。
(陸運)

■ 生産活動 「横ばいの状況にある」

鉱工業生産指数は、「化学」「金属製品」などが低下しているものの、「食料品・たばこ」「生産用機械」などが上昇している。

なお、企業からは、EV 市場の減速により設備投資需要が低下しているとの声が聞かれる一方、AI 需要を背景としたデータセンターの建設拡大により半導体・電子部品関連の需要が旺盛との声が聞かれている。

以上のことから、生産活動は、横ばいの状況にある。

(主なヒアリング結果)

- 北米の EV (電気自動車) 市場の減速により、主要顧客において設備投資に慎重な姿勢が継続している。一方で、AI 需要やデータセンターの建設ラッシュによって電子部品関連の需要が高まっている。なお、中東情勢の影響によって、シンナー系塗料の入手が難しくなっており、納品時期などに支障が出ている。(生産用機械)
- 海外の AI 上流企業は非常に好調な模様で、データセンターの旺盛な建設需要によって、海外から半導体製造装置関連で大受注を獲得した。(生産用機械)
- 自動車部品関連で、海外需要は各地域で落ち込んでいるものの、国内需要に関しては高級車やHV (ハイブリッド) 関連で好調。(輸送機械)
- 製薬において、年度末に委託元の在庫確保の動きがあり売上げは伸びたが、今期はその反動を受けている。(化学)
- 工場の生産能力拡大により、加工事業などで既存取引先との取引を強化できており好調。(食料品)
- 6月頃まで中東情勢の影響を受けて原材料の確保に奔走していたが、足下は問題のない水準まで回復している。取引先が中東情勢の影響を懸念して在庫確保の動きを見せており、販売状況は好調。(プラスチック製品)

■ 雇用情勢 「緩やかに持ち直している」

有効求人倍率でみると、引き続き求人が求職を上回っている。また、法人企業景気予測調査の従業員数判断 BSI について、全産業の現状判断は、令和3年4-6月期調査以降21期連続の「不足気味」超となっていることなどから、緩やかに持ち直している。

(主なヒアリング結果)

- 中途採用では、経験者を求めているものの、他社との競合が激しく、なかなか確保できない状況にある。このため、未経験者についても年齢などの一定の条件を満たせば採用し、社内教育を経て配属している。(はん用機械)
- 技術職の人材不足が慢性化しており、外国人材の採用や高校訪問による説明会の実施など、幅広い手法を用いて採用活動の強化に取り組んでいる。(小売)
- 人手不足のため、スポットワークを必要に応じて取り入れている。不足感のある業務や時間帯に限定した募集が可能なため、効率良く人手を確保できているが、リピーターや継続的なアルバイト採用につながるケースは少ない。(宿泊)
- 生産量が横ばいに移行しつつあることや、AI 活用などの省人化投資を進めていることから、今後は正社員よりも柔軟な調整が可能な派遣社員の増員を進める方針である。(輸送機械)
- 物価高に伴う仕入れ価格の上昇により収支が圧迫されており、人手不足の状況にあっても求人を差し控える企業が見られる。また、中東情勢の悪化による先行き不透明感から、採用を控える企業も一部に見られる。(公的機関)

■ **設備投資** 「8年度は前年度を上回る見込み」 （全産業）「法人企業景気予測調査」令和8年4～6月期

8年度の設備投資は、製造業では前年度を下回る見込みとなっているものの、非製造業では前年度を上回る見込みとなっていることから、全体では前年度を上回る見込みとなっている。

■ **企業収益** 「8年度は増益見込み」 （全産業）「法人企業景気予測調査」令和8年4～6月期

8年度の経常利益は、非製造業では減益見込みとなっているものの、製造業では増益見込みとなっていることから、全体では増益見込みとなっている。

【その他の項目】

■ **住宅建設** 新設住宅着工戸数でみると、持家・貸家・分譲すべてにおいて前年を上回っていることから、全体で前年を上回っている。

■ **公共事業** 前払金保証請負金額（累計）でみると、国、県、市町村で前年を上回っていることから、全体では前年を上回っている。

■ **企業倒産** 倒産件数及び負債総額は足下で前年を上回っている。

■ **企業の景況感** 法人企業景気予測調査（令和8年4～6月期調査）の景況判断BSIでみると、現状判断は「下降」超となっている。先行きについては、「下降」超の見通しとなっている。

〔連絡・問い合わせ先〕

近畿財務局 奈良財務事務所 財務課
TEL 0742-27-3162（直通）